

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1293500078		
法人名	(有)シーシー商会		
事業所名	グループホーム白寿		
所在地	八街市東吉田561-74		
自己評価作成日	平成29年10月10日	評価結果市町村受理日	2018年1月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

○優しく、穏やかに、笑顔で……をモットーに事務所として力を入れ、取り組んでいます。
 ○利用者の健康状態を常に把握し、医療機関と連携を図り月2回訪問診療・投薬・必要に応じて 往診依頼・24時間体制の支援を行っています。
 ○町内会、ディサービスの催し(バザー・盆踊り・運動会など)参加し楽しく交流させて頂いています。
 ○昨年同様、花畑・菜園・種まき・収穫とそれぞれ出来ることを無理なく楽しんで、生活を実感して頂ける様支援致します。
 ○地域のボランティアの皆様のご協力により日本舞踊・民謡等をご披露下さり、近所の方も一緒に参加され、楽しませて頂いています。
 ○災害に対し備蓄をする、婦人会主催の炊き出し訓練に参加、いざという時SOSを出せる所、転ばぬ先の杖、運営推進会議で強くお願いし、賛同を得ました。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kai.gokensaku.mhlw.go.jp/>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市稲毛区園王町1107-7		
訪問調査日	平成 29年 11月 8日		

管理者が地域との関係を意識的に作って、盆踊りや正月の札焼きなど地域の行事にも積極的に参加しており、地域との交流は進んでいる。近隣の農家から野菜の差し入れもある。さらに地域の役員、民生委員、婦人会などにも運営推進会議に参加を依頼し、事業所の運営上のアドバイスをもらったり活動に協力してもらっている。職員も地域の人が多い。また、管理者が飼っている犬をホームに連れてきており、家族の一員になっており、利用者の楽しみになっている。さらに、ホームでは常に理念を意識できるように理念をもとに「今日の言葉」をつくり日めくりにして支援に散り組んでいる。管理者は昼食後の時間を積極的に使って職員との話し合いを行うなど、職員とのコミュニケーションを取る事にも力を入れて、管理者と職員がともに、よりよい支援に向けて取り組んでいることがうかがえる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の共有と実践について利用者さんお一人一人の状況に合わせた対応に向け信頼関係が築ける様に努力している。	理念をより具体的に分かりやすくするために、皆が食事を取る居間に、日めくりの「今日のことば」を掲げ、職員全体で確認しながら支援するようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会で行われる行事や、イベントに参加したり、日常の中で地域とつながる生活を大切にしている。緊急時など、連絡できる様な交流を持っている。	町内で行なわれる盆踊りや正月の札焼きなどに、参加している。日常的に近隣農家から野菜の差し入れがあったり、行事に誘われたりと、管理者の積極的な働きかけもあって活発な交流ができています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や町内のイベント参加の時に認知症の話やご家族や近所の方の相談にのっている。パンフレットもお配りしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	H29年4月・8月に運営推進会議を開催。地域包括・区長・民生委員・家族に参加して頂く。ニュースで災難にあったホームの事等の話で、まずは逃げる場所、備蓄と意見が出た。転ばぬ先の杖をお願いし努力目標とした。	入居前は独居であったり家族が遠方にいる利用者も多く、目標達成計画に家族の参加を掲げたが難しい状況がある。しかし、会議には地域から多くの参加があり、活発な意見交換がされている。災害時の対応について意見をもらい、水やカンパンなどの備蓄の用意、近隣の畑に避難する取り決めなどがされた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	分からない事がある時は、市の関係者の方々に相談・指導を頂いている。入居状況を報告し紹介して頂いている。	運営推進会議には地域包括支援センター職員が出席している。また、市の担当課とは来訪があったり、事業所側から相談するなど、連携しながら利用者の支援に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員が身体拘束の研修を進んで受講し、内容を、管理者職員が共有し、言葉や接遇に気遣い、身体拘束のないケアを実践している。	身体拘束はしていない。外部の研修を受講した職員が内部で伝達研修を実施し、全職員に伝えて意識を高めるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は、虐待防止の研修を受け、職員に伝え、各自の意見を出し合いながら、虐待が見過ごされる事のない様注意を払い防止に努めている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	相談を受けた場合、又はその必要性のあると思われた場合は、関係者と話し合って支援したい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に、ご家族様ご本人様に当ホームを見学して頂き、疑問や不安点にもお答え出来る様十分時間を設け、対応している。又、解約時や改定時も、納得して頂ける様説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者が中心となり、ご家族の窓口となっている。面会時には、入居者様の様子をお伝えし、ご家族様の御意見やご要望等お聞きし、アットホームな雰囲気をご心掛け運営に反映させている。玄関先に意見箱を設置している。	家族がホームを訪れた際には管理者等が声をかけ、利用者の日常の様子を伝えながら、意見や要望を聞き取るようにしている。また、意見箱を設置し、いつでも意見が言えるということをご家族等に伝えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	知識や仕事、介護への意識を少しずつ深め、勉強会・意見の交換など努めて来た。職員の質の向上に向け努力している。	管理者は昼食後などの時間を利用して職員の意見を聞き反映に努めている。また、職員の様子を見て何か変化がある場合は、声かけをして話を聞くように心がけている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力・実績・勤務状況に応じ、勤務体制を考慮し、職場の環境条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のケアの実際と力量を把握した上で必要に応じて、指導・研修に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会への参加時、他施設勤務者との意見交換他、電話や文章等で連絡を取っている。同列ホームでの密な連絡で良い所を聞き、取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学や体験入所で、ホームの実際を感じて頂き、声掛けを多くし、コミュニケーションを十分取る事で声にならない不安や、要望も把握できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時にご本人様の状況を教えて頂く事、当ホームの状況を見て頂く時間を十分に設ける事で、忌憚なく話をして頂ける信頼関係を構築できるよう努めて居る。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本年2名の入居有り。本人の状況を詳細に伺い、必要なサービスを見極める様にしている。導入時には、全スタッフが統一したケアが出来る様申し送りを十分行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事など出来る事に参加して頂いたり、行事などでは職員と入居者様が力合わせて調理や出し物を行う事で、良い関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	アットホームな雰囲気作りと訪問出来る機会作りの増加に努めている。来所出来ない方には、電話・手紙で近況報告させて頂き、ご本人様とご家族様の絆を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方々の来所、電話でのお話、年賀状や手紙などに関して、直接的、間接的に支援するよう努めている。	親戚や知人などの訪問を歓迎している。また、電話や手紙を書く時に手伝ったり、お墓参りなどにも行けるように家族などの協力も得るよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食器洗いや、洗濯物たたみ等の共同作業を和やかな雰囲気で行って頂ける様、利用者様同士の人間関係にも配慮している。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要事項は報告、又ご相談には積局的に対応するようにし、連絡を取り合えるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々信頼関係を築いて行くことでご本人様の悩みや不安を知り、生活上の意向や希望を把握出来る様に努めている。	普段の生活の中で会話する中から、利用者の希望や意向の把握に努めている。気になることがあれば声かけをし、話すことが困難な場合は表情などから読みよるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、生活歴・今までの暮らし方の状態等を出来るだけ詳しくお聞きする様努めている。入居後も継続的な把握を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様お一人お一人の健康状態、ADL等、出来る事、出来ない事、時間がかかるが出来る事、前は出来ていたが出来なくなってきた事等の把握を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人が望む生き方が出来る様に毎月モニタリングを行い、ご家族様の希望を取り入れ職員・関係者の意見を聞き介護計画を作成している。	介護計画は利用者や家族の情報から得た意向などを大切にして、医師の助言も入れながら、管理者、計画作成担当者や介護職員等で検討し作成している。また、半年に1回見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日バイタルチェックをし、体調変化の確認、普段と違う様子の気づき等、職員間で情報を共有し、記録し、必要であれば介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・ご家族様の状況やニーズに対して、受診の付添い等、施設側より対応し、変化があった時はご家族に連絡している。ご家族様の要望を聞いたり、毎月の行事を工夫することに努めている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元のボランティアの方達が三味線と踊りで来て頂いたり、地域の盆踊りには出向いて行くなどしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの協力医に月2回訪問診療をお願いしている。本人やご家族様の希望を大切にし必要に応じ他科受診もご家族様に同行して頂き医師の説明を受ける様にしている。	ホームの協力医が月2回訪問して利用者の健康管理をしている。専門医を受診する場合は家族の協力を得るようにしているが、職員が送迎するなどの支援をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホームには、看護師基準はなく配置されていないが、利用者一人一人の身体状況を把握し普段と違うと思われた時には早期に主治医に上申し指示を受けて居る。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、サマリーを作成し、速やかに治療が受けられる様にしている。又、入院中の御様子や、治療内容等についてはご家族様、病院関係者との情報交換を密にし、早期退院出来るよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事前に、ご家族様やご本人にご意向をお伺いし、主治医にも報告し、協力を得ている。実際に、重度化し、終末期を迎えられた時は、ご本人様の一番良い対応をご家族様・主治医と連携を取り支援させて頂いている。	契約の時にホームとしてどこまでできるのかを利用者や家族等に説明し理解を得ている。重度化が進んだ場合には、家族、医師、ホームで話し合いを重ねて対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応マニュアルを作成し、全職員が把握出来るようにしている。又、施設内研修も設け、実践力を身に付けられるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消火・避難訓練を実施。緊急時に慌てないよう、職員が常時対応できるよう体制を整えている。地域の自治会が災害対策に取り組んでいて、連絡を取り合い、近隣含めて何をお手伝い頂けるか話し合いを進めている。	年2回消防・避難訓練を実施している。1回は消防署の指導を受けている。夜間については連絡網で職員が駆けつける体制を取っている。また、災害時に備え食料や飲料水を備蓄している。	地震、水害などあらゆる災害に備えて訓練を考える必要があると思われる。また、地域ともさらに連携を進め、役割分担なども話し合うとよいと思われる。

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	施設内研修でも、言葉かけの内容によっては、虐待になりかねない事を全スタッフで再確認し、日頃の言葉かけでも、尊厳を持って接するよう心掛ける事を常に話合っている。	施設内研修でも虐待防止等をテーマにし、利用者の尊厳とプライバシー保護を大切にすることを繰り返し伝えている。トイレ誘導や、入浴時の声掛けなどにも配慮するよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	分かり易く、返事のしやすい問い掛けを心掛けている。自立した日常生活と自己決定が出来る様支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活のスケジュールは決まっているが、一人一人のペースを大切にしている。散歩や買い物、その他の要求に関して受け止め、納得できるような対応を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人らしさを尊重し、日頃の服装にも気を配っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や後片付けは、利用者様の能力に合った事を、和気あいあいと行って頂いている。白寿菜園での収穫の喜びと、重ねての御馳走を職員と一緒に味わっている。	食事は生活のなかでも、一番大切に考えている。食材は本社が購入しているが、野菜は近隣農家の差し入れや菜園で収穫した物を使っている。調理、盛り付け、片付け、洗い物などできる範囲で利用者も一緒に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様の状況に応じ、毎食後の口腔ケアを支援し、誤嚥防止、訪問歯科による口腔ケアの指導を受け、清潔保持に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者様の自立排泄が行えるよう動作、行動、表情の観察によるトイレ誘導と排便管理票での様子を見て、適切なる対応に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様の自立排泄が行えるよう動作、行動、表情の観察によるトイレ誘導と排便管理票での様子を見て、適切なる対応に努めている。	排泄チェック表を参考にして、利用者の様子などを見て声掛けをしてできる限りトイレで排泄ができるように支援している。夜間はパッドを使用しているが、見回りの際にトイレに誘導するようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録に基づいて、定期的な排便があるか確認し、一日2回の体操、散歩、合唱等による身体を動かす工夫や、お茶・水飲みで1000cc以上の水分補給を考慮している。便秘症の方は、医師に相談して、便秘薬を処方して頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には曜日と時間帯を決めてあるがゆったりと入浴が出来る様、極力見守りをしながら、出来ない部分のみ支援する様にしている。	入浴は週2回以上は入ってもらえるように支援している。足が伸ばせるゆとりがある浴槽で、安全面に配慮して最低2名、利用者によっては、3名で支援を行っている。入浴が嫌だと言う人には、時間や曜日を変えて声掛けをしている。入浴剤を使うなど入浴が楽しめるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様のその日の健康状態により、室温の温度調節や寝具の調節を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬変更時は、薬変更帳を作成し、全スタッフに申し送りが出来る様にしている。又、間違いがない様職員2名により服薬、確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器洗い、洗濯物干し、昼・夕の食事のメニュー書き、花瓶の水替え等、その方々の残存能力を活用して、楽しみながら役割をして頂いている。又管理者が連れてくる犬も楽しみの一つになっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来るだけ、希望に添って外気浴を楽しんで頂いたり、行事に普段行けない所を企画に立て、買い物希望される方には、気候も考慮したうえで、出かけている。	近隣の散歩や買い物に行くなどしている。また、季節の花見などに車で出かけることもある。ホームではできるだけ利用者に外気に触れてもらう機会をつくらうとしており、職員が菜園や花壇づくりをする時に利用者も誘うようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭感覚があり、管理出来る方は所持して頂き、一緒に職員が同行して買い物をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様や大切な人からの電話の取り次ぎや手紙の返信では、職員が手助けしながら行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は、温度や清潔に気を配るほか、季節感のある飾りやお花をご自分の居室に飾られたりし、生活感のある空間作りに配慮している。	玄関、リビング、廊下、トイレや風呂場などの共用空間はきれいに清掃されている。玄関、リビングや廊下には季節感のある飾り付けもされており、居心地良く過ごせるように配慮している。管理者が飼っている犬が週数回ホームに来ており、利用者の楽しみになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テラスに椅子等を置いて、自由に日光浴しながら、おしゃべりを楽しんだり、リビングのソファでゆっくりと寛いだり、新聞を読むスペースを設けて思い思いに過ごされて居られる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで入居者様が大切にされてきた家具や仏壇までも、そのまま持って来て頂き、居心地の良いお部屋作りをして頂いている。	居室は掃除が行き届いている。それぞれ使い慣れた家具などを持って来ており、家族の写真を飾るなど居心地よく過ごせるような居室にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室・トイレの場所が分かる様名札を付け、各所に手すりがあり、安全に配慮し、自立した生活が出来る様くふうしている。その月の行事予定を壁に貼り出し、日めくりカレンダーにより、日時を考えられる様にしている。		